ぬるにや、

〔濫觴抄下〕關白

宇多元年丁未仁和三十一月廿一日、太政大臣基經公五十二始任之、同廿六日乙丑上表、勅答云、社稷之臣非朕之臣、宜以阿衡之任爲卿之任、左大辨橘廣相作之、時人阿衡之字難云云、仍朝家及嚴密之御沙汰之間、橘廣相思死云云、

〔神皇正統記宇多〕踐祚のはじめより、太政大臣基經をた關白せらる、この關白薨じて後は、しばらくその人なし、

〔日本紀略一醍醐〕延長八年九月廿二日壬午、天皇逃位、讓於皇太子寬明親王、〇朱雀詔曰、左大臣藤原朝臣〇忠平保輔幼主、攝行政事、

〔神皇正統記朱雀〕天皇諱は寬明、醍醐十一の子、御母皇太后藤原の穩子、關白太政大臣基經の女なり、〇中略外舅左大臣忠平昭宣公の三男、後に貞信公といふ、攝政せらる、寬平に昭宣公薨じてのちには、延喜御一代までも攝關なかりき、この君をた幼主にてたちたまふによりて、故事にまかせて萬機を攝行せられけるにこそ、

〔一代要記五朱雀〕攝政

左大臣忠平〇中略

天慶四年十月卅日辭攝政、十一月廿八日爲關白、

〔日本紀略二朱雀〕天慶四年十一月廿八日、詔萬機巨細百官總己、皆關白於太政大臣、〇藤原忠平然後奏下如仁和故事、

〔榮花物語一月の宴〕安和二年八月十三日なり、御門〇冷泉おりさせ給ぬれば、東宮〇圓融くらゐにつかせ給ひぬ、御年十一なり、東宮におりゐの御門の御このちごみやゐさせたまひぬ、師貞親王〇花山